

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和 7 年度第 1 回高松市国際交流推進協議会
開催日時	令和 7 年 5 月 30 日(金) 午後 1 時 15 分～2 時 15 分
開催場所	高松市防災合同庁舎 302 会議室
議 題	(1) 令和 6 年度 国際交流推進事業実施状況について (2) 令和 7 年度 国際交流推進事業について (3) その他
公開の区分	☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開
上記理由	
出 席 者	＜委員＞ 和田委員、時岡委員、平田委員、オブリー委員、太良尾委員、 長井委員、畑委員、三木委員、水田委員 ＜オブザーバー＞（公財）高松市国際交流協会 青木常務理事 ＜市＞ 次田創造都市推進局長、 高本文化・観光・スポーツ部長、牧野都市交流室長、 福本都市交流室長補佐、水野
傍 聴 者	0 人 （定員 5 名）
担当課及び 連絡先	観光交流課 都市交流室（Tel 839－2197）

審議経過及び審議結果
議題(1)について ・事務局の説明に対し、下記の意見があった。 ○3 点ある。①トゥール市との交流が中止になった理由と、2 年に 1 回の開催になった理由、②南昌市中学生訪問団受入について牟礼中学校が選定された理由、③増加傾向にあるという外国人住民は、どの国の人がどのくらい増え、外国人対応に関する庁内連絡会議で議題にあがったことはどんなことなのかを知りたい。 ○それでは一つずつお願いしたい。まずトゥール市との交流が隔年となった経緯について、お願いしたい。 ●トゥール市からの申し出によるもので、財政面が理由の一つ、二つ目の理由としては、トゥール市は環境保全に関する意識が高く、航空機の利用が環境に対する負荷に繋がることへの配慮である。

○2点目、南昌市中学生訪問団の訪問先が、牟礼中学校となった理由についてお願いしたい。

●訪問先については、直接、特定の学校へ依頼するのではなく、市教育委員会へ相談し、推薦をお願いするもので、その選定理由については把握できていない。

○今後は、教育委員会ともコミュニケーションをとり、もっと好ましい形があれば検討していくということではいかがか。

最後に、増加している外国人住民、庁内連絡会議についてお願いしたい。

●外国人住民の数は、今年4月で7,000人ほど。昨年と比較し1,000人近く増加している。国籍は、中国、ベトナム、フィリピンの順が多い。

また、昨年度の庁内連絡会議は今年3月に開催し、行政サービスの多言語化について、主に議論した。現在、本室に英語と中国語の通訳・翻訳員がおり、その通訳・翻訳員が窓口等で英語と中国語の通訳を行っているが、市の行政情報の多言語化についても、主な言語が英語、中国語であり、新たな言語を選定すべきかを中心に議論した。結果、在住外国人の国籍が多様化している今、新たな言語をひとつ絞って全庁的に多言語化するのはコスト面の問題からも現実的ではない。最近はアプリ等翻訳ツールの翻訳技術も向上しており、事業ごとに対象者や対象言語も変わるため、一つの言語を追加するよりも、翻訳ツールの使用を想定したうえで、アプリ等の導入を含めて、引き続きこの庁内連絡会の中で協議をしながら進めていきたいと思っている。

都市交流室としては、市の公式HPに、多文化共生の施策を集約したページを作ろうと考えている。ある程度、項目ごとに一覧となったページで、ポータルページという形で現在準備中である。併せて、各課から外国人住民に対して伝えたい内容も集約し、今後新しい情報がある度に更新したいと考えている。

○質問が2点。資料の1ページ、セント・ピーターズバーグ市高校生の親善研修生の受入れだが、期間が10日間ぐらいの短い期間のため、成果というのは難しいかと思うが、一方で、これまで36回を積み重ねてきているとすると、セント・ピーターズバーグ市の高校生が高松市にきたことによって、彼らがアメリカに戻り日本に興味をわいて日本に関係する仕事をするようになったとか、何か交流の成果というか、これがきっかけで何かが動いた、というものを、もし御存知であれば教えていただきたい。

2点めが、資料4ページの南昌市の南昌市に関してだが、昨年度、高松市の中学生が8人、南昌に派遣されたということだが、この中学生はどのように選ばれたのか、中学生自ら手をあげて中国に行こうと思ったのか、選考の過程がもし分かれば教えていただきたい。

●まず、セント・ピーターズバーグ市研修生の派遣事業だが、毎年、セ市側で選定した高校生を3名受け入れている。また同時に、(公財)高松市国際交流協会の事業として、高松市からも高校生を3名派遣しており、お互いにホームステイをしながら交流を進める、という内容である。

過去に受け入れた研修生がその後どうなったか、良かった事例で今すぐに思いつくものはな

いが、毎回、帰国した後は、セ市側の市民の方々へ御報告いただく機会を設けてくださっている。高松市側も派遣された高校生が帰国してから報告会を開催し、市民に広くお伝えする活動をしている。

また、南昌市へ派遣する中学生の選考だが、基本的に公募で、市協会から募集をかけていただき、希望する方に申込みをしていただき、そして選考をしたうえで、決定するという形である。これはトゥール市やセント・ピーターズバーグ市の親善研修生も同じである。

△本人からの希望を募り、御家族の承認を経て応募していただき、市協会で選考している。

○セント・ピーターズバーグ市に関しては、ちょうど今、香川大学にエッカード大学から学生が来日しているところで、高松市との交流がきっかけとなり 2017 年に学校同士の協定を結んでいる。それ以前から交流は続いていたが、それがしっかり継続している。そういった相乗効果も生じている。

議題(2)について

・事務局の説明に対し、下記の意見があった。

○まず確認だが、市政出前ふれあいトークについて、これは年間何回くらい実施しているものか。

●例年 2 回程度である。

○民間活動の促進というところだが、どのような形で民間活動を把握し、促進の対象となるような取組を決めているのか、そのプロセスについて簡単に教えていただきたい。

●民間の国際交流団体への活動支援で、支援実績としては、アメリカ エルバートン市との交流へ補助金を交付しており、また、(公財) 高松市国際交流協会へ事業費の補助も行っている。加えて、国際交流に関する事業について、市協会も助成金の交付を行っている。

○こういった情報も、先程のポータルを通じて、ホームページの中にまとめていくということか。

●直接的な記述かリンクかは別として、情報提供はしていく予定である。

○エルバートン市との交流活動に対し御支援いただいている、牟礼エルバートン親善委員会の今年の活動について、報告する。今年も相互交流を行う予定であり、7/10 にエルバートン市からの高校生 5 名と引率 1 名が来日予定である。高松市内や広島等に訪問し活動を行い、7/21 に、今度は高松市の高校生 5 名と引率 1 名と一緒にエルバートン市へ向かう。帰国予定は 8/1。資金の援助もいただいているものの、今大変苦労しているのは、航空券代金の高騰と、燃油サーチャージが不透明で乱高下し価格が落ち着かないことである。基本的にホストファミリーに関しては、お互いにボランティアで、高松市側もエルバートン側も費用は出さず、航空券代だけの負担ではあるが、高校生家族の負担も大きくなるし、委員会としても派遣する引率者の航空券代を負担しなくてはならない。それから、今年は 36 回目の交流だが、今回牟礼からは 16 年前に自身が高校生時代に第 20 期の研修生としてエルバートン市に行った方が社会人となり、

引率者として伺うことになっている。

それから、それぞれ皆さま団体で活動されているが、SNSの活用についてお聞きしたい。写真を掲載する際、写真と名前の扱いに非常に苦慮しており、今年渡米する研修生の氏名を発信するときに、高校生の名前と写真を載せて良いものか、委員会でもいろいろと話し合っているところではあるが、皆さまはどうされているのか、御意見をいただきたい。

○肖像権その他の問題について、何か御意見、あるいは知見のある方、いらっしゃるか。

○本人と保護者に確認をとり、了承いただければSNSで発信している。書面等のやり取りはしていない。

高松市中央図書館とともに読み聞かせの事業を行ったが、読み聞かせをしてくださった方が高校一年生の女性であった。その際には、本人と一緒に来ていた母親に確認を取り、今後広報物等に載せてよいかの確認をした。

○必ず書面で承諾書を取っている。そして、ホームページに名前は載せない。

○香川大学の場合は、一般的なものには顔は載せないか、あるいは判別できない程度のものになっている。ただ一部、本人画像がないと効果がない場合には本人に承諾をとったうえで掲載するが、その人の行動と写真が結びつかないような工夫はしている。最近は行動を特定することまでしてしまう人たちがいるので、名前を載せないだけではなく、写真の人物と個々の行動が、そのページに掲載されている行動が合致しないように工夫をしている。もちろんどこから見ても問題が無いような、表彰関係は名前を出している。

○高松市日中友好協会も35周年を迎え、今年の9月頃には記念事業を行う予定である。また、商工会議所の立場としては、高松市が行った「高松市・南昌市友好都市提携35周年記念事業」で、7月3日の南昌市の企業団、代表団との意見交換会をきっかけに、今後も経済交流等をしていく予定である。また、友好都市提携35周年記念事業の一つでもある、11月の市民訪問団についても、協会会員でこれまで南昌市の高松・南昌友好会館へ日本語講師として派遣された会員の方々が参加したい、ということで進めている。

また、先ほどの民間活動の促進について、高松市日中友好協会は、大連の中日友好協会と交流協定を結んで今年7周年を迎え、今月の17日から5泊6日で大連のアカシアウォークに参加し、県の交流都市である陝西省と西安を観光し、会員からも好評であった。今年は瀬戸内国際芸術祭の開催年ということで、大学生を中心に8月下旬に40名が大連から来日する予定で、高松の文化や魅力をお伝えし、大連でPRしていただき、大連から高松に来られる方も増えればよいと思っている。

○質問だが、ツール市への派遣事業について、今現在で何名の応募があるか。

●来週選考の予定だが、今のところ応募者は8名、大学生である。

○多文化共生について、出入国在留管理庁が行う支援事業だが、これは交付金をいただいているのか、ただ支援事業に参加しているものなのか、教えていただきたい。

●これは入管庁が実施する事業である。行政の窓口に来る外国人に対して通訳支援を行うため

のもので、多数の言語に対応できる。電話を使用する 3 者間又は 2 者間通話であり、事前登録した各課が窓口対応に活用している。現在のところ、事前登録が必要で、費用は発生しないものとなっている。

○多文化共生事業について、だいたいどの自治体でも国際交流を担当するところが担っているが、担当部署は国際交流とは別にしたほうがいいのではないかなと思う。また、入管庁が実施する交付金事業についてだが、多文化共生事業について、高松市の場合は、県庁所在地であることや県のアイパルなどでも事業を行っているので、特に高松市が今のところ何かを進める予定はないことに対し、以前は同意をしたものの、県の相談センターもかなり大変で、そこまで万全の体制ではないと聞いている。やはり各市町に対し交付金が出るので、権利をしっかりと利用して、それぞれの市町で体制を整えていったらいいのではないかなと思っている。

この 7 年ほど、ずっと多文化共生に関わり、現場に出て、外国人住民が増えてきている状況と、起きている問題に直面する度に危機感を感じている。先ほど高松市の外国人住民数は 7,000 人とのことで、総人口の中でみると 1.7%、そんなに慌てる必要はないと思うが、少ないうちに対応したほうがよいと思う。

外国人人口 7,000 人ということであれば、入管庁の交付金は環境整備だけで 1,000 万円が申請できる。5,000 人以上の自治体は 1,000 万円、加えて、体制を整える計画をすれば運営資金は二分の一が交付される。高松市にはその権利があるので、是非検討をお願いしたい。県が実施しているからというのではなく、国際都市、世界都市高松を目指すのであれば、高松市独自でやっていかないといけない。蓋を開けてみたら大変なことになっていた、とならないよう私たちも協力したいと思っている。

丸亀市はこの 2 年で外国人人口が倍増した。2023 年に 1,200 人程度だったのが、今年 3 月末で 3,000 人になった。実際、様々な事件も起きており、その中で日本人の子どもも巻き込まれている。5 月の初め、お城まつりのあった 2 日間だが、マルタスが閉鎖されるほどの暴動があった。その数日後に中学生が大麻で捕まり、その中には外国人の子ども達もいた、ということを聞き、非常に悲しくショックだった。

そういう側面も知りつつ、国際交流という前向きな事業もどんどんやらないと人が育たず、負の側面へ引っ張られていってしまう。高校に行けない子たちも増えている。すべて外国人が関わっているとは言えないが、往々にして治安が悪化しているという現状があるので、出入国管理庁の交付金を使い、早めに対応していかないといけないと思う。準備が大変なことや人材不足で、なかなか腰が上がらないと思うが、高松市は人材が豊富だと思うので、自治体職員だけが大変な思いをするのではなく、我々のような関係者にも頼りつつ、一緒に考えていければいいと思う。

○高松市の事情に応じた施策というものを、相乗効果が得られるような形で進めていただければと思う。

○小学校の授業などに入ることがあるが、今学校で、日本語が分からない子どもが、完全に

取り残されている状態である。先ほどのアプリの検討ということ言えば、例えば今、香川県警で新しいアプリを作って治安の問題や、どこで何が発生した、などの細かい情報をピンポイントで伝えている。もし、その交付金が申請できるのであれば、高松市独自のアプリ開発も検討してほしいと思う。

※ ○委員 ●事務局 △オブザーバー